

平成26年度 医療問題特別委員会行政視察報告書

平成26年10月20日

- 1 日程 平成26年7月8日(火)・9日(水)
  - 2 視察先及び視察事項
    - ① 公立丹南病院(福井県鯖江市)
      - ・公立丹南病院の運営状況について
      - ・地域医療における病院の役割について
      - ・救命救急センターとの連携について
  - 3 視察者 一行8名
    - 委員長 樋口浩二・副委員長 亀山重光
    - 委員 浅野一明・滝沢茂秋
    - 高橋禧雄・安武秀敏
    - 同行 近藤直樹 健康課参事
    - 随行 吉田和実 議会事務局主査
  - 4 応対者 公立丹南病院 伊藤重二 病院長・木村浩史 事務部長 他
- 

【鯖江市の概要】

鯖江市は、福井県嶺北地方の中央部に位置する市で、人口68,928人(平成26年9月1日現在)、面積84.75km<sup>2</sup>で、北は福井市、南は越前市に隣接し、市の中央を低い丘陵が南北に細長く延び、これに沿って市街地が形成されています。

多くの世帯が特産である眼鏡関連の産業、あるいは業務用の漆器生産に関わっており、眼鏡、漆器、繊維を三大地場産業とする産業のまちとして、また自然を生かした潤いある人間味豊かなまちとして堅実な発展を続けています。

【公立鯖江病院の概要】

公立鯖江病院は、平成11年4月に公立丹南病院組合の設立認可を受け、平成12年2月に国立鯖江病院の経営移譲に伴い、公立丹南病院として発足しました。

公立丹南病院組合は、鯖江市、越前市、池田町、南越前町、越前町の2市3町(人口約19万人)で構成され、現在は、公益社団法人 地域医療振興協会が管理・運営を行っています。

人口19万人を有する丹南地域で唯一の公的中核病院であり、2次救急の拠点病院、災害時の拠点病院、へき地医療支援の拠点病院として重要な役割を担っており、老朽化が進んでいることから、改築事業に着手し、平成20年度に基本設計を行い、平成24年度に新病院として開院しました。また、地域に密着し病院の基本理念である、保健、医療、福祉の包括的医療を実践しています。

## 1 病院施設

- ・所在地 福井県鯖江市三六町1-2-31
- ・開設者 公立丹南病院組合（管理者＝牧野百男 鯖江市長）
- ・沿革 明治31年3月 鯖江陸軍病院として発足  
昭和20年12月 国立病院に転換（国立鯖江病院）  
平成12年2月 国立鯖江病院から公立丹南病院組合に移譲  
（一般195床、感染症4床、合計199床）  
（社）地域医療振興協会に管理委託  
平成17年4月 （社）地域医療振興協会に指定管理（5年間）  
平成13年4月 通所リハビリテーションセンター業務開始  
平成13年7月 指定居宅介護支援事業所業務開始  
平成16年6月 訪問看護ステーション事業開始  
平成20年10月 院内保育所開設  
平成22年4月 公益社団法人地域医療振興協会に指定管理  
平成22年6月 改築工事着手  
平成24年5月 新病院開院（一般175床、感染症4床）

### ・病院の構造等

鉄筋コンクリート造地上7階建・延床面積15,070.34㎡

- ・病床数 179床（一般：175床、感染症：4床）個室49室
- ・診療科目 内科、神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科  
皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科  
リハビリテーション科、放射線科、麻酔科（15診療科）

### ・患者数（平成25年度）

入院 45,885人（1日平均：125.7人）

外来 162,331人（1日平均：552.1人）

### ・医師数 常勤医師：33人

※ 参考：福井県は医師数10万人あたり226.55人で全国22番目、新潟県は177.21人で全国44番目。（2010年）

## 2 在宅事業棟・保育所棟

- ・デイケアサービス 通所リハビリテーション、通所介護
- ・在宅サービス 訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所
- ・保育所 院内保育所、病児・病後児保育所

## 【地域医療における病院の役割】

### 1 基本理念

「地域に密着した、地域住民のための包括的医療（保健・医療・福祉）の実践」「地域住民に愛され、信頼される、安らぎのある病院」

### 2 果たすべき役割

#### ①救急医療

平成21年度から、夜間・休日は内科系医師1名＋外科系医師1名の2名体制に移行。新病院での救急室の拡張で、1診から2診体制が可能に。

#### ②産科医療

平成18年度から産科医1名から2名体制に。LDR室やBSSシステムの導入など分娩受入件数の増加を目指す。

※LDR室： 陣痛、分娩、回復の頭文字で、別々だった各部屋を同一の部屋で行うシステム

BSSシステム： お産のときに感じる不安や緊張を「音と光」のリラクゼーション機能によってスムーズにやわらげるシステム

#### ③小児救急医療

県が小児の休日・時間外救急対策として、平成23年度から嶺北に1ヶ所「福井県こども急患センター」を設置。圏内の医療機関が制度に参加。

#### ④災害医療（災害拠点病院）

災害時、停電時においても、非常用発電で約7割の稼働で、3.5日分の燃料を構内に確保。

## 【救命救急センターとの連携について】

福井県の三次救急医療機関は県立福井病院しかない。搬送時間は20分位で、必要に応じて転送している。医師等の組織的な連携は特にない。

## 【その他】

### 1 経営状況について

地域医療振興協会としての丹南病院の収支は、平成11年度から黒字で推移している。巨額の赤字が出たことはなく、これまで構成市町の負担はない。

万一、破綻したら鯖江市等の負担となる。

### 2 スマイルバスについて

公共交通機関を利用していただくために、コミュニティバスを運行し、正面玄関にバスターミナルを設置してもらった。病院内でテレビ大型画面を設置して、運行状況が見ることのできるサービスを行っている。

### 3 地域密着事業（健康増進活動等）の実施について

特に実施していないが、二次医療の病院ではあるが、地域に対しては一次医療（かかりつけ医）としての機能も持っていくと言う意味で行っている。

市として出前講座を毎年60箇所くらいで実施しているが、その中で病院職員が講演等を行っている。

### 4 病児・病後児保育所（えくぼ）について

鯖江市の委託を受けて実施している「乳幼児健康支援一時預かり施設」

定数 4人（病児2人・病後児2人）

平成25年度実績 約500人が利用

体制 保育士：院内保育の保育士で対応

看護師：病院看護師で対応

### 【所感】

公立丹南病院は2市3町が構成する公立丹南病院組合で、公益社団法人地域医療振興協会が管理運営を行なっている。

病院の基本理念は「地域に密着した、地域住民のための包括的医療（保健、医療、福祉）の実践」を掲げており、地域医療に対する意気込みが感じられる。人口19万人を有する丹南地域で唯一の公的中核病院で、二次救急医療機関として地域の役割を十分果たしているように思う。さらに通院者のことを考えスマイルバスを運行し、バス専用ロータリー乗降場所を備え、乗降場所から病院入口までアーケード通路を造っており、雨や雪から通院者を守っている。

また、二次医療で対応できない重篤な救急患者等は救急車で20分～25分くらいの距離のある福井県立病院の救急救命センターが24時間を通じて対応しており、地域医療体制ができています。

我々の地域（加茂・田上地区）も早期にこのような体制ができることを期待する。

この視察で特に感じたことは、各地域で医師不足が叫ばれている中、公立丹南病院はベッド数179床で常勤医師33名、看護師240人を確保し、経営面も黒字経営で安定している。医師を確保するため、病院長はスタッフと共に福井大学医学部及び県の人事課へ平身低頭でお願いをしているという。

病院を思う情熱と積極的な取り組みが、病院経営の安定につながっていると感じられた。視察に同行された諸氏に感謝いたします。